

学校評価(共通項目)評価書

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	特別活動の充実に努めた。委員会活動を中心に、生徒の自治活動を活性化させ、取り組んだ。生徒朝会、生徒会行事の改善を図り、活躍の場を意識的に設定したことから、生徒の自尊感情も高まってきている。	B	生徒、保護者、教職員のそれぞれの立場から前向きな姿勢でいる様子が見受けられる。学校は落ち着きを取り戻してきたが、次年度への改善の具体的方策を明確にし、更なる向上に取り組んで欲しい。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	B	毎日、登下校見届けを実施している。また、PTA活動として校外パトロールを各学期に実施している。日常の点検を重視し、不具合の早期対応に努めた。安全点検の方法の工夫・改善を実施している。	B	生徒の安全・安心の確保は、学校運営上非常に重要である。登下校の見届け、緊急配信メール等、今後も確実に行うとともに、安全点検実施方法の改善について早急な対応を望む。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	県、全国学力・学習状況調査によると、本校の達成率は50%前後であり、平均的な力は身につけてきている。一方で個々の力の差に対応すること、思考力・判断力・表現力の向上に課題があり、改善を図る。	B	少人数、T、Tなど、教え方の工夫が見受けられる。今後も全ての教科において、補習等を含め、一人一人の実態に応じた指導、支援を行い、基本的な学力を保証していくことが大切である。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	今年度、大型TV、無線LAN等の充実を進めた。授業でのICT機器の活用頻度が増え、生徒の関心・意欲の向上に寄与している。全教科で校内授業研究会を実施し、数学、英語、社会では少人数・T、Tによる指導を行っている。	B	一層の向上に向け、生徒を主体とした学習・生活環境を作り、生徒自身が達成感や成就感を味わえるような場を授業の中で多く提供していくことが必要であり、取組が求められる。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	生徒会、自治委員、部活動等の組織も加わり、毎朝、挨拶運動を実施してきた。立ちどまり挨拶を実践する生徒も見受けられる。朝会、授業の定時開始が定着してきており、着席チャイム等、より一層の向上を図る。	B	全体的に子どもたちの態度もよく、落ち着いた学校生活を送れているように見える。生徒たちからの挨拶も増え、明るくなっている。今後も努力を続けて欲しい。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	A	今年度、新たに生徒指導委員会を立ち上げ、情報連携を充実させるとともに、毎月の行動指針(アクションプラン)を示し、委員会活動を中心に取り組んだ。また、生活チェックファイルを導入し、生活向上に努めた。	B	生徒の調査から、充実した学校生活を送れているようであるが一部悪口、いじめなどの言葉が見受けられる。見過ごすことなく確実に対処するとともに、今後もきめ細やかな指導をお願いしたい。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	体育委員会が毎日昼休みに、グラウンドの開放、ボールの貸出を実施しており、外で体を動かす生徒の姿が多く見受けられる。平日、休日問わず運動部の生徒が熱心に活動している。球技大会を全学年で実施した。	A	運動部がとても活発でよい成績を収めてきている。高い目標をもち、意欲的に活動している生徒の様子が見受けられる。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	新体力テストの事前取組を実施し、個々の記録を伸ばし、達成感を味わわせる工夫を行った。体育的行事の見直しと、工夫・改善に取り組んでいる。従来の長距離走大会に駅伝を導入し実施した。	B	駅伝大会の取組に工夫が見られた。体育大会では、事前取組ができるかどうか等、種目選定に検討の余地がある。部活動の時間、指導体制など、より一層の工夫が必要である。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	A	地域人材活用として、あさかスクールサポーター、部活動外部指導者、特色ある学校づくり支援員等と連携し、指導にあたっている。総合的な学習の時間の講演会、職業体験学習等、地域の協力を得て実施している。	B	学校、保護者、生徒が一丸となって学校改善に取り組んできた。生徒指導上の課題については継続的な取組が必要である。今後は学力向上、運動部のさらなる活躍に期待している。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	A	PTA活動として、校外パトロール、挨拶運動に取り組んだ。地域清掃活動として新たにクリーン大作戦を実施し、学校、保護者、地域が一体となり活動した。ふれあいフェスティバルでは参加団体、人数共に増加している。	B	学校の前向きな姿勢と学校を良くしようという努力が子どもを通じて家庭に伝わってきている。クリーン大作戦等、地域と連携した取組の実施は、子どもたちの健全育成を図るうえで有意義であった。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満

# 平成27年度学校評価のまとめ

## 1 学校の組織運営

達成率（「あてはまる・ややあてはまる」とした回答割合）
生徒：94%（前年比119%）
保護者：93%（前年比116%）

- 特別活動の充実
- 生徒の自治活動の活性化
- 毎月、生徒朝会で委員長が活動指針について発表
- 三送会の実施
- 生徒の活躍の場を設定
- 達成感からくる生徒の自尊感情の向上
- 教職員の共通理解、共通行動
- 次年度の改善点を検討する年度末職員会議の実施（全5回）

## 2 安全・安心

達成率（「あてはまる・ややあてはまる」とした回答割合）
生徒：97%（前年比117%）
保護者：96%（前年比115%）

- 挨拶運動、登下校の見届けを毎日実施
- PTA活動としての校外パトロール（各学期計3回実施）
- 日常の点検の重視
- 不具合の早期発見、早期対応
- 危機管理マニュアルの配布
- 緊急配信メール、学校HPでの緊急情報の発信
- 心と生活アンケートの実施、対応
- いじめ調査
- 二者面談、教育相談週間の設定（来年度はQ-U実施予定）
- オレンジリボン運動
- いじめ撲滅行動宣言
- ハートフルポエムの掲示
- 怪我の発生等の迅速・適切な対応行動
- AED、エピペンについての校内研修会
- 学校医を招聘した学校保健委員会、衛生委員会の実施
- 避難訓練（各学期計3回実施（消防署、防災管理会社との連携））
- スケアード・ストレート法による自転車安全指導
- 安全点検の具体的方法について（時期・手順・とりまとめ・対応）

## 3・4 基礎学力の定着

達成率（「あてはまる・ややあてはまる」とした回答割合）	
《生徒について》	生徒：92%（前年比114%）
	保護者：83%（前年比128%）
《学校について》	生徒：92%（前年比115%）
	保護者：82%（前年比130%）

- 県、全国学力・学習状況調査での本校達成率（50%前後）
- 授業規律の確立

- 平均的な学力の定着
- 大型TV、無線LAN、授業用パソコン等の意図的導入
- 授業時のICT機器の活用頻度の向上→生徒の関心・意欲の向上
- 全教科で外部から指導者を招聘した授業研究会を実施
- 少人数指導（2年数学）、T.T（英語・社会）の実施
- あさかスクールサポーター（数学・体育）、特色ある学校づくり支援員（数学）の導入
- あさか教師塾、管理職による若手教員の勉強会
- 定期テスト前の補習の取組
- 合唱コンクールを朝霞市民会館ゆめぱれすで実施
- 生徒個々の学力に格差
- 思考力・判断力・表現力に課題（全国学調のB問題など）

#### 5・6・7 規律ある態度の育成

達成率（「あてはまる・ややあてはまる」とした回答割合）

《授業について》	生徒：96%（前年比117%）
	保護者：93%（前年比125%）
《生徒について》	生徒：84%（前年比124%）
	保護者：87%（前年比139%）
《学校について》	生徒：92%（前年比121%）
	保護者：90%（前年比132%）

- 生徒会、自治委員、部活動等の組織による挨拶運動、立ちどまり挨拶
- 朝会、授業の定時開始
- チャイム着席の定着→着席チャイムへのステップアップ
- 生徒指導委員会の立ち上げ
- 毎月の行動指針（アクションプラン）の取組
- 「あたりまえ10ヶ条」の掲示
- 生活チェックファイルを導入
- 埼玉県警スクールサポーターの導入 週2回→廃止
- 小・中連携推進事業（小学校教員の中学校訪問、本校教員の小学校訪問、本校生徒会の小学校訪問）
- 兼務発令教員による小中生徒指導連携
- 清掃の仕方の見直し

#### 8・9 健康・体力向上

達成率（「あてはまる・ややあてはまる」とした回答割合）

《生徒について》	生徒：94%（前年比103%）
	保護者：94%（前年比103%）
《学校について》	生徒：92%（前年比116%）
	保護者：89%（前年比113%）

- 新体力テストの事前取組実施による記録向上
- 体育委員会による昼休みのグラウンド開放、ボールの貸出
- 平日、休日問わず運動部が活発に活動
- 球技大会の全学年実施
- 長距離走大会から、長距離走・駅伝大会への工夫
- 体育大会の在り方、種目選定等の工夫・改善

## 10 保護者、地域との連携

達成率（「あてはまる・ややあてはまる」とした回答割合）

生徒：93%（前年比115%）

保護者：93%（前年比117%）

- 地域人材活用として、あさかスクールサポーター、部活動外部指導者、特色ある学校づくり支援員の導入
- 総合的な学習の時間の講演会（非行防止教室：埼玉県警、ふれあい講演会：朝光苑、平和学習：戦争体験のある方々、進路学習：卒業生に学ぶ）
- 近隣事業所での1年職業体験学習（3 days チャレンジ事業）
- 学校公開週間（11月）毎日が学校公開日のスタンス
- クリーン大作戦（地域清掃活動）の実施（学校、保護者、地域）
- ふれあいフェスティバルの参加団体、参加人数の増加（小学校3団体、中学校3団体、高校2団体、地域3団体）
- PTA活動（校外パトロール、挨拶運動、花植え活動、バレーボール大会、綱引き大会）での連携
- 善行を讃える手紙（2通）（3年男子、2年女子）
- 学校ホームページをリニューアル

### [まとめ] 学校便り2月号より

今回のアンケートの結果は昨年度（平成26年度）との比較で大きく好転するものでした。10項目の設問それぞれに対して「あてはまる」「ほぼあてはまる」と高評価をいただいた方の数は、昨年度比平均で生徒はプラス8.6%、保護者の方はプラス12.4%となりました。

具体的には学校の一番の指針である「学校教育目標の達成に向けた取組」については、昨年度生徒・保護者とも78%であったのに対し、今年度は共に89%という高い評価をいただきました。これは学校教育目標の中心理念である「自立・貢献・信頼」の実現に向けて、学校が知徳体のバランスのとれた生徒の育成を目指した教育を進めてきたことにご理解いただいた結果と考えます。また学校が安心、安全に過ごせる場となっているかについては保護者の92%、生徒の90%が「なっている」と回答していることから、今年度学校全体が落ち着いたことをご理解いただけていることが伺えます。

学力向上に関する設問については、基礎基本の定着や授業改善について生徒は約85%、保護者は77%が出来ていると回答しています。一例として3年生は、4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果と12月の「南部校長会テスト」の結果を比較すると大幅な学力の向上が見られます。今年度、授業を落ち着いて行うことが出来たこと、ICT機器の導入や全教科での授業研究会の実施などの成果が出ていますが、学力向上は本校の最重要課題と捉えて、今後も工夫しながら取り組んでまいります。

生徒の生活面に関わる「規律ある態度」についての評価は、前年度比20%増の項目もあり、一番大きく変化がありました。生徒が落ち着いた学校生活を送り、時間を守ったり、あいさつをきちんとしたり、学習や生活の決まりを守るようになったという評価をいただきました。生徒の日頃の頑張りを誉めたいと思います。

学校評価はいうなれば「学校の通知票」にあたるものです。通知票をもらった後、その結果を活かすことで次の学習や生活へのステップとするように、この学校評価の結果を今後の朝霞一中の教育活動に活かしてまいります。生徒、保護者のみなさんの評価と教職員の自己評価、さらには学校評議員の方々の学校関係者評価をあわせて平成27年度の教育活動を総括し、次年度に改善すべき点を明らかにしてその解決に向けた具体策を立てて、より良い学校づくりを目指してまいります。